

東谷古墳(本庄市)

ひがしやつこふん

東谷古墳はこの木々の中にあるという



「このあたり、マムシ注意」の藪の中を「巳年」の補助員が率先して進む



ま新しい説明板があった



この東谷古墳は大久保山古墳群の一つで7世紀代に築造の円墳とされる

埼玉県選定重要遺跡

東谷古墳

東谷古墳は大久保山丘陵の南東へのびる尾根上に所在する円墳です。墳丘は直径約二七メートル、高さ約三メートルの規模があり、墳丘上には、かつて琴平社が祀られていました。墳丘の中心部には、横穴式石室が築かれ、現在でも、側壁・奥壁と天井の一部が残っています。石室は、側壁が外側へ弧を描くように膨らむ「胴張型石室」と呼ばれる型式で、側壁に榛名山起源の角閃石安山岩を使用し、奥壁には片岩の板石を四段に積み上げ、さらに天井にも片岩の板石を架しています。

東谷古墳の石室は、明治二十九年（一八九六）九月に、琴平社の氏子らによって発掘され、その際に本庄警察署へ提出された「埋蔵物品及石室実況御届」（明治二十九年九月十七日付）によって、当時の様子を知ることができます。それによれば、石室は間口一メートル八〇センチ、奥行き三メートル六〇センチほどの規模があり、遺物は鉄製大刀一、鏢一、金環二、水晶製切子玉一、管玉一、土師器片九、須恵器片三、人骨片一が出土しています。

古墳の築造時期は、石室構造の特徴や、埴輪をもたないと考えられることから、七世紀代と推定されます。大久保山丘陵には、古墳時代前期の前方後円墳である前山一号墳、古墳時代中期初頭の方墳、前山二号墳などがあり、古墳時代を通じて有力者層の墳墓が造営されていることから、東谷古墳も前代の有力者の勢威を受け継いだ人物の墓であったと推定されます。墳丘は現在でも良好な状態で保存されており、学術的にも貴重であることから、前山一号墳などとともに、大久保山古墳群として、埼玉県の重要遺跡に選定されています。

平成二十四年三月

本庄市教育委員会

この解説板は公益財団法人朝日新聞文化財団からの助成を受けて作成したものです。

墳丘を見る



石室が露出している



胴張りをもち横穴式石室で側壁・奥壁と天井の一部が残っているという



アップで見る



横から見る



墳頂の様子





墳頂から説明板方向を見下ろす



